

| 国際教養学部言語文化学科 | | 准教授 | 光野 百代 | 大学院の授業担当 無 |
|------------------------------------|---------------------|------------|--|---------------|
| 教育活動 | | | | |
| 教育実践上の主な業績 | | 年月日 | 概要 | |
| 1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む) | | | | |
| 1 | ②LMSを活用した参加型授業の実践 | 2018年4月～現在 | 特に大人数の履修者がいる講義形式の授業で学生の参加を促すために、学生がスマホを使って、授業中に教員からの質問に答えることができる機能を持ったLMSを活用している。大講義室の授業では学生からの質問や意見があまり出ていなかったが、LMSを活用することで双方向型の授業がある程度実現できていると考える。 | |
| 2 | ③授業活動・成績評価活動の見直しと改善 | 2020年4月～現在 | 特に2020年にオンライン授業が急に始まってから、これまで成績評価の一部として課していた学生によるプレゼンテーションなど対面を要する活動を実施することが難しくなった。それでも学生のアウトプットの機会を作るべく、インフォグラフィックというデータや情報をポスターのようにビジュアル化した資料の作成や、GoogleSlide等を用いたグループプレゼンテーション等、ICTを活用した活動を展開するようになった。結果的に、対面授業に戻っても、学生参加を促す効果的な授業方法として、こうした活動を継続、改善してきた。 | |
| 3 | | | | |
| 2 作成した教科書、教材、参考書 | | | | |
| 1 | 授業で使用するハンドアウトの作成と活用 | 2011年4月～現在 | 講義形式の授業では、パワーポイントではなく、ハンドアウトに授業の要点をまとめて、毎週の授業で学生に配布をしている。そうすることで、教員は板書する手間を省くことができ、学生と質疑応答を行う双方向の授業に集中できると実感している。学生も、ハンドアウトに書き込みができるので、自分のノートと併用して活用しているようである。 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 | | | | |
| 1 | LMS実践例の実践報告 | 2019年3月 | LMSを使った授業実践について、同様にLMSを活用していた他の2名の教員と共に教育実践報告としてまとめ、学内の紀要に掲載した。 | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 4 その他教育活動上特記すべき事項 | | | | |
| 1 | | | | |
| 2 | | | | |
| 3 | | | | |
| 学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等) | | | | |
| 年月日 | | 活動内容 | | |
| 2005年7月 | | 日本社会学会会員 | | |
| 2017年10月 | | 日本教育社会学会会員 | | |
| 2019年9月 | | 移民政策学会会員 | | |
| 2021年11月 | | 社会文化学会会員 | | |

| | | | |
|--|-----|-------|---------------|
| 国際教養学部言語文化学科 | 准教授 | 光野 百代 | 大学院の授業担当 無 |
| その他 | | | |
| 個人ウェブサイト https://orcid.org/0000-0002-1714-4233 https://researchmap.jp/mitsunomomoyo | | | |